

EYE INFORMATION

第21回日本シェーグレン症候群学会学術集会

第21回日本シェーグレン症候群学会学術集会を平成24年9月7日(金)、8日(土)の2日間、ウエスティン都ホテル京都にて開催させていただきます。シェーグレン症候群(SS)学会は、研究会からスタートし、これまで、眼科、歯科、内科で担当してきている経緯があります。これまで、眼科では、慶応大学眼科の坪田一男教授が第1回、2回、9回(9回は東京女子医大の高村悦子教授と共同開催)を会長をされ、今回、10年ぶりに眼科でということで、理事の私が会長を拝命することになりました。SS学会は、臓器特異的自己免疫疾患であるSSと、数年前から大きく取り上げられるようになってきたIgG4関連疾患の2つの疾患を柱として、他の膠原病や自己免疫疾患を取り扱いながら大きく発展してき

ています。眼科領域では、世界に先駆けて日本に新しい点眼剤が処方薬として登場し、SSの患者さんに大きな福音がもたらされようとしています。これはまさしくドライアイ治療のパラダイムシフトです。こういった多くの分野に渡る疾患は、ともすれば情報交換が乏しくなりがちですが、今年の本会では、最先端と教育に力点を置いて、関係各科やスペシャリティの垣根を越えたコミュニケーションを通じて、新しいテーマに出会える機会を提供できればと思っています。1人でも多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。(横井則彦)



アイバンクシンポジウム

2月5日に「第28回京都 滋賀 奈良地区アイバンクシンポジウム」を開催いたしました。このシンポジウムは毎年、アイバンク愛の光基金管理会との共催にてアイバンクの普及活動の一環として開催されています。

今回は眼科医療相談、後援会、ヴァオリンコンサートの3つの内容にて盛況に開催することができました。後援会では初めて京都府立医大眼科学教室の木下 茂教授から「見るということ」と題して一般市民の方々に視覚機能の

仕組みと目の病気についての講演がありました。また米国のシアトルアイバンクのモントヤ氏より米国でのアイバンクがいかに成功を収めたかの道のりの講演をいただき、さらに東京歯科大大市川総合病院角膜センター長篠崎尚史先生より「21世紀のアイバンク」と日本のアイバンクの現状とこれからの方向性について詳しく講演していただきました。

最後には、幼い頃に視力障害を負いながらも並々ならぬ努力をされ、現在世界、日本と演奏活動をされている川島成道さんによるヴァイオリンコンサートが行われ、非常に繊細で凛としたヴァイオリンの音色に皆、拍手喝采でありました。

こうして、291名の参加者をいただき、多くの角膜移植を待つ患者様への献眼の必要性をご理解していただきシンポジウムを盛況に終える事ができました。

京都府立医科大学眼球銀行では平成23年度より2名のコーディネーターが勤務し、アイバンク活動の充実化と献眼活動の啓蒙を進めてきています。今後とも皆様の温かいご協力とご支援を宜しくお願い申し上げます。アイバンク活動や献眼登録に関するお問い合わせは、下記によるしくお願いいたします。(稲富 勉)

【京都府立医科大学眼球銀行】

連絡先:075-251-5127

【アイバンクホットライン】

070-6680-1010 もしくは

090-3703-5115



国家基幹研究開発事業「再生医療の実現化ハイウェイ」に採択

この度、京都府立医科大学と同志社大学・滋賀医科大学が共同で申請いたしました研究課題「培養ヒト角膜内皮細胞移植による角膜内皮再生医療の実現化」が国家基幹研究開発事業「再生医療の実現化ハイウェイ」の短期で臨床研究

への到達を目指す再生医療研究(課題A)に採択されました。平成23年11月より研究プロジェクトをスタートさせております。

本プロジェクトは、これまでの医療を根本的に変革する可能性のある細胞移植・細胞治療等による再生医療について、その実現化を加速するため文部科学省と厚生労働省との協働により、前臨床・臨床研究までの一貫した研究開発を実施するものです。採択された研究課題においては、角膜内皮障害に

よる視覚障害を、生体外で培養したヒト角膜内皮細胞の細胞移植によって治療する再生医学的治療法の研究を行い、3年以内の実現化を目指します。

【課題名】

培養ヒト角膜内皮細胞移植による角膜内皮再生医療の実現化

【研究代表者】

京都府立医科大学視覚機能再生外科学(眼科)教授 木下 茂

【研究経費】

4億9907万円(3年間の総額/申請時)

【参考】

文部科学省HP (http://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/1311540.htm)

再生医療の実現化ハイウェイ

プロジェクトマネージャー

視覚機能再生外科学(眼科) 上野盛夫



編集後記